PLUS +H

by HIP LAND MUSIC

2017 | SUMMER #06

掲載情報は発行当時の物であり、
現在の情報とは異なる点もございます。
あらかじめご了承ください。

PLUS +H by HIP LAND MUSIC

新生フレデリックの素顔にフレる

2017 |SUMMER #06

PLUS +H by HIP LAND MUSIC

INTが切り開く、音楽表現の未来

2017 | SUMMER #06

Happy
Hello
HIP LAND MUSIC
Hope
Hear
Humor
Hero
Harmony
Honesty

"H" words make you more fulfilled.

+H限定ARムービー公開中。表紙を読み込み、動画をチェック。

下記のステップでアプリをダウンロードし、+Hの表紙をそれぞれ読み込むと「フレデリック特集」「INT特集」の限定動画を視聴できます。

ARサービス「ココアル2」

COCOAR2

STEP 1 アプリストアで「COCOAR2」と検索

STEP 2 ダウンロードしたアプリを立ち上げて、「スキャン」ボタンを押して、表紙にスマートフォンをかざす

STEP 3 画像を認識すると動画が自動再生

新生フレデリックの素顔にフレる。

幅広い音楽要素から生み出されるユニークなサウンドと中毒性のあるメロディー、
そしてアッパーなライブパフォーマンスで、その人気を加速させている神戸出身の
ロックバンド「フレデリック」。
人懐っこいけどどこかつかめない…
そんな不思議な魅力を持つ彼らの素顔にフレたい!という事で、
この度+Hでは横浜中華街での撮影取材を敢行。
奇しくも、横浜は新たにメンバーとなったドラマー高橋武の地元。
日頃見られない"素"の彼らに迫る。

写真＝石崎 祥子

手相占いでフレる。フレデリックの素顔。

『バンド内で共通点ってあるのかな?』『双子って占い結果まで似ているのかしら?』
占い激選区である横浜中華街で「本格的な占い館に行くのは初めて!」という
フレデリック4人のパーソナリティーや今後について占ってみた。

三原健司 (Vo./Gt.)

利き手は右手

①運命線が途中で切れている=変化がある。
これから先も変化=移動がありそう。住む環境や何かが変わるのでは?
②神秘十字線がある=直感が冴える人。第六感・直感を信じると良い。この勘は財産。
③ラッキーMがある=自分が好きな様にやって生きてきた人。
わがままはわがままだが、自分がやりたい事をやれているし、やっていける!
④妄想力、イマジネーションが強い=絵を描いたり、美容師や建設業など、何か作る仕事に向いている。
⑤金運がある!
⑥旅行線が出ている=変化によって開運していく。逆に言えば変化がないとだめ。
サラリーマンには向いていない。

**ラッキーMがあり、自分の好きなことをやっていける手相。直感が冴えている。
この先1、2年の間に良い意味で変化があるので、その変化を楽しみましょう。**

赤頭隆児 (Gt.)

利き手は右手

①健司さんと同じラッキーMがあり感情線、知能線、生命線、運命線がうまくミックスされている。
②4人の中で一番現実的。
③障害線がない=障害がなく悩みやトラブルがあっても「まあいっか」となる。
本人は溜め込む性格だと思っていても、溜め込んでいない。→単純明快で小さいことにこだわらない。
占い師さんの娘さんと結婚させたい様な手相。
④金星丘(親指の付け根)が厚い→めちゃくちゃ健康。徹夜しても全然大丈夫。
⑤若干KY。
⑥全体的に線が少ない=欲がないから線がなく、線が少ないのは今の現状に満足しているから。
大きく包み込むタイプの人なので4人の中で一番リーダーシップがある!?

**欲が少ないから手相線が少ない。良い意味で単純明快で、とても健康な癒し系。
故に一番リーダー向き…?占い師さんの娘さんと結婚させたい。**

三原康司 (Ba./Cho.)

利き手は右手

①ますかけ線がある=天下取り、自分がやりたいことをつきすすむ。
自分を強く持っていて頑固なので、仕事においてもいい意味で頑固さ・こだわりを生かすと良い。
②月丘(小指側の下部の膨らみ)からのびる運命線=実家を離れたほうが開運する。
③感情線が中指で終わっている=感情の起伏が激しい。せっかちなところがありそう。
④友達に凄く恵まれている。
⑤金運=周りの人が助けてくれるのでお金に困る事がない。
⑥健康=疲れがとれていない?
金星丘(親指の付け根)がもうちょっと膨らんでいて良いはず→上手にストレスを発散しよう!
シャワーだけでなく湯船で一息つきましょう。

**ますかけ線があり、自分のやりたい事を曲げずに突き進むと成功する。
また友人に凄く恵まれている手相の持ち主。健康のために湯船につかって下さい。**

高橋武 (Dr.)

利き手は右手

①生命線がはっきりしており、二重生命線がある=とても健康。
②知能線の向きは標準的な傾きで、客観的でバランスの取れた考えができる。
③人気線がある!=そこそこ人気が出る。
④35歳まで仕事が絶好調という相が出ている。
⑤神秘十字線がある=お墓参りするとご先祖様が守ってくれるご加護がある、感性が優れている。
⑥希望線がはっきり出ている=夢を明確に持つ事ができ、目標達成のために頑張っていて、実現出来る。
⑦知能線と運命線の始点が繋がっている=慎重派。慎重すぎてそれが裏目にでることも。

**とても健康で、客観的な考えを持つ人。様々な線がアーティストに向いている事を
示している。目標達成のために頑張れるが、慎重になり過ぎない様に注意しましょう。**

SPECIAL INTERVIEW

サポートドラマーとして参加していた高橋武が正式加入し、新体制で動き出したフレデリック。
編集部からのささやかなお祝いとして中華料理を囲みながら、バンドの近況を聞いてみた。

取材 / 構成・文＝+Hスタッフ　写真＝石崎祥子

── 1st AL「フレデリズム」リリースから、ワンマンツアーや海外公演などがありましたが、印象に残っている出来事はありますか？

三原康司（以下：康）：海外に行ったのはな。

三原健司（以下：健）：大きかったよな。

康：やっぱすごく大きかったよな。タイ、シンガポール、台湾と3公演行って。海外行くと、あんま小さいことを考えても意味ないなって、それは多分皆が思うことやと思うんですけど。なんか、細かい事気にせんでいいんやなってこととか。

── 海外に出てみて感じられることなんですね。

康：なんか皆めっちゃピュアに感じちゃうんですよね。反応がそのままなんで。言葉もわからないから。もしかしたら色んな風に考えているのかもしれないけど。分からないからこそ「イエス、ノー」だけでいいというか。

── お客さんの反応も国によって全然違うものですか？

健：場所によっても全然違いますね。

康：特に台湾は、日本人のことが好きなオーラが凄い！(笑)本当、幸せに感じますよね。逆に台湾人が日本に来た時には良くしてあげようってすげー思いましたね(笑)

── フレデリズムツアーは演出がとても印象的でしたが、演出に関しては、どの様に決めているんですか？

メンバー一同：皆で話し合ってかな。

健：フレデリックのスタンスとして「ライブの中で面白いことがしたい」っていうのは常に言っていて。何かそれに対してアイデアを出してくれたときに、それを皆で育てていくみたいな感じですかね。

── 凄いと思ったのが、最後の公演まで演出のネタバレがSNSなどで一切流れていませんでしたよね。お客さんとの信頼関係が出来ているというか。

健：そうですね。

康：信頼が有りますよね？皆全然言わんかったもんな。

赤頭隆児（以下：赤）：ライブの前説で言ったら、皆ちゃんと言わへんでいてくれた。

── 時が経つのは早いもので、これが1月、2月の話ですもんね。

赤：今はあんまライブがないんで、早くまたツアーがしたいってめっちゃ思ってますね。

康：メンバー皆「早くツアーがしたい」が最近の口癖ですね(笑)ライブがやっぱりすっげー楽しいです。

── では、サポートドラマーとして参加されていた高橋さんの正式加入についてお話をお伺いします。お互い出会ってからはかなり時間が経っていますよね。

高橋武（以下：武）：2015年の10月3日からですね。

── 正式加入を意識しだした、タイミングとかありますか？

健：うーん…バンドのスタンスとして、前にいたkaz.さんが抜けた後も、3人でやっていくとは言いながらも、やっぱり「3ピースバンド」っていわれることに違和感を覚えている自分たちがいて。3ピースっていっても"メンバーが3人"なだけで、ドラムがいなくて、それはバンドって言いにくい。ユニット感というか。自分たちにとってはやっぱり4人、"ドラムもいてバンド"って気持ちがメンバー間であって「ドラマーを迎え入れたいな」っていう気持ちはずっとありました。もちろん3人で進んでいくことを前提として、もし進んだ先にそういうことがあるのであれば、いずれはやっぱり正式メンバーを迎えて4人でやっていきたいと思ってましたね。

── サポートとして出会ってから正式加入に至るまで、武さんの意識の変化はどのようなものでしたか？

武：最初の時点では、お互いにあんまりそういう意識はなかったよね？

メンバー一同：うんうん。

武：最初にサポートの話をもらって、それこそ「OTOTUNE」のレコーディングをやり始めたときは、自分が入るって姿は全然想像してなかったし。

赤：俺もしてなかった。

康：はじめは俺もそうやったな。

武：やっていくうちにっていう感じだよね？

── お互い第一印象と今の印象は変わりましたか？

武：俺の印象は変わられてる気がするな。

赤：もっと大人しい人やと思ってた。

武：本当すいません。

一同：(笑)

赤：なんか一番康司くんと気が合ってる気がする、俺は。

康：よう喋るのはそうやなあ。

赤：一緒におって楽しそうやなあと思う。

武：いやいや隆児くんといる時も健司くんといるときも楽しいよ!?(笑)

赤：康司くんと合う人って少ない気がするんよ。

武：それdisってるじゃん！(笑)

康：やめてえや、なんか悪人みたいに(笑)

赤：康司が素を出せる人っていうか。

健：康司は誰とでも合わせることが出来るから、余計に素を出せる人って少ないんですよ。

武：これはお兄ちゃん目線ですね(笑)

── 武さんから見て、3人に対する印象は変わりましたか？

武：うーーーん…出会ってから結構経っちゃってるし、第一印象思い出せないんだよな(笑)…定期的に合うとかじゃなくてずっと一緒にいたから。

赤：ホンマにな(笑)

健：サポートとして入ってやもんな。(初対面で)メンバーとして入ってれば、第一印象とか変わってるかもしれんけどな。

武：強いて言えば…当初康司くんが、結構俺に気を使ってふざけた事とか下らない事とかを言ってきてるのかと思ったら、

それが素だったっていう(笑)

一同：(笑)

康：最初そう思っとったんや(笑)

武：印象変わったというか、考え直したよ(笑)

―― お互いにすんなりと馴染んでいたってことですね(笑)

赤：馴染めましたねえ。

―― では、武さんの4人の中でのキャラってありますか？例えばいじられキャラとか…

武：僕考えたんですよ、自分なりに！

一同：(笑)

武：3人のそれぞれで考えたバランスがあって、それが凄い美しかったから。

赤：なりゆきやけどなあれは。

武：やっぱり…シンプルなところで言えば、僕だけ関東なんで。標準語は武器にしたいなと思ってます。

一同：(笑)

武：本来武器にならないんですけど、標準語キャラ。逆に！

―― ということは、3人が東京に馴染んで、標準語に近づいてくるとあまり良くないですよね？

武：むしろ僕が心配してるのは、3人とずっと一緒にいるから…自分がエセ関西弁みたいになるのがすごく怖いです(笑)

赤：俺ら3人以外にも周りに関西出身が多いからなあ。スタッフとかも。でも元々俺らもな、作ったわけじゃないもんな。なりゆきやんな…「双子の兄の健司、弟の康司、他人の赤頭隆児と関東の高橋です。」みたいな？

一同：(笑)

武：でもそうか、俺は康司くんと一番仲良さそうに見えてるんだ。俺は全員同じくらい仲良いと思ってるから。

健：康司とたけちゃんが特別仲良いていうより、康司が凄い仲良くしてる印象。

康：2人でふざけてることが多い。

武：ああ、ふざけてることは多いね。

康：けどこのふざけ方は、他の人にはそんなにやらへん。

―― それが武さんにはすんなり出来たってことなんですね。

康：芸大生っぽいなーっというか(笑)

――「芸大生っぽい」とは？

康：芸大生っぽいノリがあるんです(笑)

―― 武さん芸大出身なんですか？

武：僕は違いますよ(笑)

康：(武は)芸大生っぽいふざけ方をするんですよ、芸大生にしか分からないんですけど(笑)しかもこれを誇りに思っているのが芸大生です(笑)

―― でも武さん芸大生ではないんですよね？(笑)

康：俺はそれを理解した上でやってるつもり(笑)

武：それぞれと話す内容が違うのかな？隆児くんともよく話すんですけど。隆児くんは唯一ギターしかやらなくて、俺はドラムしかやらなくて。(健司は)ギターボーカルじゃん？で、(康司は)曲書いて、ベースとコーラスじゃん。俺らだけなんですよね、「専門職」なのが。それで共通した話みたいなのはあるよね。

赤：結構な、真面目な話もするよなあ。あと恋バナもしたし。

武：それ最近良く出すよね(笑)

赤：恋バナできる人なんか少なくない？この年になると。

武：恋バナって単語自体この年になるとめったに言わない(笑)

―― 高校生みたいですね(笑)

武：健司くんとも真面目な話をすることが多いかな。

健：うん、分かる。

赤：俺それ知らんな(笑)

武：4人ともストイックだと思うんだけど…ストイックの種類が俺と健司くんはなんか似てる気がするんだよ。

健：それ分かるわ。

武：そうそう…「基礎中の基礎」みたいな。

一同：(笑)

康：俺、あの本の話ついていけんかったわ(笑)何やったけあの本？

武：脊髄と脊椎が一、みたいなやつ(笑)

健：「呼吸の仕組み」みたいな(笑)

赤：大事やもんな、呼吸とか。

康：その箇所を意識していたら良くなっていく、みたいな。歌うんやったら、どこから息が漏れていくかをっていうのを2人でずっと延々と話してるんですよ(笑)

武：そういうのがまた、他のメンバーとは違うよね。

―― 隆児さんとは恋バナ、康司さんは芸大ときて…

健：んで体の仕組みですからね(笑)

武：皆おかしいですね(笑)

―― 本日はありがとうございました！

赤：これからも高橋共々宜しくお願い致します(笑)

「+H WEB」にて誌面PDF・取材レポートを公開中！

NEW TOPICS

2nd Single『かなしいうれしい』2017.8.16 Release.

iTunes,レコチョクにて先行配信中

【初回限定盤】 AZZS-67 ¥2,037(+税)
<収録曲:CD>
1. かなしいうれしい 2. シンクロック 3. まちがいさがしの国
4. 峠の幽霊 Live at新木場STUDIO COAST
5. 真っ赤なCAR Live at新木場STUDIO COAST
6. ナイトステップ Live at新木場STUDIO COAST
7. CYNICALTURE Live at新木場STUDIO COAST
8. ディスコプール Live at新木場STUDIO COAST
■初回限定盤DVD
「フレデリズムツアー2016-17 TOUR FINAL
@新木場STUDIO COAST LIVE」

【通常盤】 AZCS-2066 ¥1,200(+税)
<収録曲:CD>
1. かなしいうれしい
2. シンクロック
3. まちがいさがしの国
4. リリリピート Live at新木場STUDIO COAST
5. ナイトステップ Live at新木場STUDIO COAST

秋の全国12箇所ワンマンツアーが決定！
「フレデリズムツアー2017 ～ぼくらのTOGENKYO～」

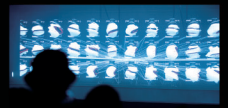
INTが切り開く、音楽表現の未来

インタラクティブ、インターナショナルをテーマに掲げ、「HIP LAND MUSIC」が
2016年にスタートさせたクリエイティブ・ディビジョン「INT」。
プログラマー / ビジュアルアーティスト / フォトグラファーなどが在籍し、
ライブでの映像演出やCDジャケットをはじめとしたアートワークのプロデュースを行っている。
また、電子音楽イベントシリーズ「BRDG」とのコラボレーションイベント「VRDG+H」は
海外にも大きな反響を与え話題を呼んでいる。
音楽の表現を拡張させる「INT」とその活動に迫る。

VRDG+H EVENT REPORT

日本唯一のホログラフィックシアター「DMM VR THEATER」で定期的に開催される、映像と音楽の新しい表現を提示するイベント「VRDG+H」。2017年6月18日に開催されたシリーズ4回目となった公演は「VRDG+H Presents UKAWANIMATION! XXX RESIDENTS『THE EYE BALL VR』」と称し、日本の現代美術家、映像作家、グラフィックデザイナー、VJ、文筆家、そしてDOMMUNEの代表である宇川直宏が参戦。アンダーグラウンドの美学を立体的な視覚体験へと昇華させるイベントとなった。

文＝高岡謙太郎　写真＝塩井一也



── 幽霊屋敷に響く金切り声
「Kezzardrix × XXX RESIDENTS Plays the DAXOPHONE（内橋和久）」

暗転したステージに照明が灯ると、目玉の被り物をしたタキシードの男が座る。ループされたシンプルなリズムが流れる中、人の声色や動物の鳴き声のような自在な音色を奏でるダクソフォンという楽器の演奏家、内橋和久の演奏が始まった。ヴァイオリンのようにダクソフォンを弓で擦り、幽玄に奏でられる楽器に映像が重なる。ステージ前のスクリーンに目玉や光の粒子が発生して飛び交う。視神経もしくは血管のような管が地面から生え、音に合わせて揺らめく。緩やかに始まった楽曲も次第に金切り声のようなヒステリックな音に変貌していく。悪夢的な世界観が目の前に構築された。

── ステージ前を徘徊する眼球たち
「北千住デザイン chaosgroove × XXX RESIDENTS Alternative minimal set feat. メイリン（ZOMBIE-CHANG）with CARRE」

続いて、XXX RESIDENTSのメンバーによる電子音楽のセッションが開始。砂塵のようなCGが舞う中、ミニマルなビートが響き、時折響くブリップ音が抑揚を加える。演奏が進むとレジデンツの目玉のモチーフが投影され、増殖、変形を繰り返し、多様なパターンで鑑賞者を困惑させる。終盤、もの狂おしいシンセ音が鳴り渡ると、メイリン（ZOMBIE-CHANG）が登場。アジテーション気味のヴォーカルを乗せ、ほんのりと高揚感を与えて締めくくった。

── 会場内は轟音で充満
「Keijiro Takahashi × XXX RESIDENTS ensemble with MERZBOW」

ハーシュノイズの先駆的存在であるメルツバウによるノイズミュージックをVR化していくセクション。轟音のノイズを視覚化した、束ねられた血管が渦を巻く。禍々しさを孕んだ映像は、最終的に頭蓋骨のモチーフに変形し、鋭利な音響によって爆発するエフェクトが混じり抑揚を与える。身体を解剖しているかのような脈打つステージとなった。

── アンダーグラウンドカルチャーを現代風に視覚体験化

前回のVRDG+H #3はアーティストの個性を強調するバラエティに富んだイベント形式だったが、今回はレジデンツへの思い入れのあるオマージュで統一されたアンダーグラウンドへの偏愛を感じさせる内容となった。過去のアングラ文化を新技術を用いて現代的に解釈する実験の場が成立。今後も世代やジャンルを越えたアーティストとのコラボレーションに期待が高まる。

THE RESIDENTSとは

目玉にハット、タキシードがトレードマークのTHE RESIDENTS。
60年代に結成されるも、現在までその正体を明かさず活動を続ける前衛音楽、実験音楽とビジュアル・アーツのグループ。ロック〜前衛音楽シーンをはじめ、数多くのアーティストに多大な影響を与え続けている。
GONTITIのゴンザレス三上もファンを公言。
「XXX RESIDENTS」は宇川直宏らが率いる、唯一の本家公認グループ。

── パフォーマンスアートとの融合
「Satoru Higa × XXX ACROBATICA RESIDENTS (Kinoko Hajime / Tsunamayo)」

ラストはアングラパフォーマンスを盛り込んだ一幕。レトロなリズムマシンから野太いビートがなり、電子音が宙を旋回する。ステージ中央では、緊迫されながら吊るし上げられるアクロバット・ロープ・パフォーマンスが始まった。Hajime Kinokoによって緊縛されるツナマヨ。それを取り囲むように、光の粒子や格子の映像が映し出される。蓄光塗料が塗られた発光するロープは、脳内シナプス信号をイメージしているという。
突如現れた立体視仕様の見世物小屋に観客は息を呑んだ。

The eyeball and top hat is a registered trademark of The Cryptic Corporation. All rights reserved.

L→R　比嘉了、Kezzardrix、清水基

Kezzardrix × 清水基 × 比嘉了 SPECIAL INTERVIEW

2017年6月3日に行われた音楽とテクノロジーの祭典「J-WAVE INNOVATION WORLD FESTA 2017」通称"イノフェス"にて、フレデリックと「INT」によるコラボレーションステージが行われた。ステージ演出を担当したのは「INT」所属のKezzardrix、清水基の2人に加え、プログラマーの比嘉了。ライブ終了直後の彼らに、今回のコラボの感想やクリエイターという仕事について語ってもらった。

取材 / 構成・文＝+Hスタッフ

―― 本日はフレデリックとのコラボレーションステージお疲れ様でした。まず最初に自己紹介も兼ねて、それぞれ今の仕事をはじめたきっかけを教えてください。

清水基(以下：清)：WEBサイトを作る時も、完成したWEBサイトを見る時も、目の前のディスプレイの中だけで全てが完結していたので、「画面の中だけに縛られないことをやりたい、もうちょっと外に出たい」と思ったのがきっかけです。

比嘉了(以下：比)：最初、大学のときにサウンドアートの研究をしていたんですけど、プログラムで音楽を作るっていうのを先生がよくやっていて。そのときに触ってだんだんって感じですね。

Kezzardrix(以下：K)：もともとラップトップPCで音楽をやっていたんですけど、ライブでやることがないんですよ、(当時の)ラップトップPCの音楽って。今のコンピュータだと色々出来るんですけど。それをライブで色々いじれるようになりたいなと思ったら、自分でプログラミングして自作の音楽演奏ソフトウェアを作る世界があることを知って。それでやってきました。

―― 今まで様々なアーティストとコラボレーションしている皆さんですが、今日フレデリックと共演してみてどうでしたか？

K：言いたいことがいっぱいあるんですけど(笑)そんなに普段聴くジャンルの音楽じゃなかったんですけど、初めてARABAKI ROCK FEST.でフレデリックのライブを見て、ライブでものすごく映えるバンドだなと。そこからモチベーションが上がったというか、色んなアイディアが「これだったら行けるな」と。ちゃんと聴き込むとすごいひねったことしていたり、ギターのフレーズがいちいち格好良かったり、スキャットのパートとか凄い格好良かったり。歌詞も面白くて、細部を聴き込んでいくとどんどん見え方が変わっていって、楽しく制作させていただきました。

―― 実際に共演してみて難しかったことはありますか？

K：普段の主戦場は割とクラブミュージックが多くて。歌詞がなかったりとか「Aメロ・Bメロ・サビ」がなかったりとか、電子音っぽい音楽っていうのに対してやっていて。ARABAKI ROCK FEST.でVJを担当したPOLYSICSだとデジタル音が多めだったから、割と映像の質感が普段やっているものの延長線上で出来たんですけど、フレデリックの場合はそのへんの「文法」が違うので、バランスをどう上手く取っていくのか、みたいなのはやっていて面白かったし、難しかったです。

清：自分は初めて生演奏を聴いたのがリハのときだったので、Kezzardrixがそう言っていたことが凄く分かりましたね。

比：うまいもんね。しっくり来る感じの曲の作り方だったので、割と展開が。YouTubeとかで掻い摘んで聴くんじゃなくて、あらためてじっくり聴き込んだら…なんか最後の最後まで色々詰めている人たちなんだなという感じがしましたね。

清：音楽好き感がすごいよね。

比：最初映像素材を作っていくときに歌詞を拾って作ろうとしていたんですけど、全然出来なくて。途中で歌詞聴くのをやめて、音で「これに合う感じ」っていうのを作っていきました。俺はこれで合ってると思ってる(笑)

―― 普段の主戦場と違う難しさが有りながらも、フレデリックは作り手にとってインスピレーションが湧くバンドだったんですね。

K：そうですね。聴き込んだら(アイディアが)出てくるって感じですね。

比：歌詞拾わなくても絵が見えてくるところがありましたね。音の感じとかで。素で音楽が好きでやっている人たちなのかなっていう。

―― 印象的だったのが、ステージ終了後に楽屋で皆で映像チェックしていた様子で。メンバー全員「おおー！」って声を上げながらライブ映像を見ていましたね(笑)

比：嬉しいね。ああいう体験は初めてだよね。

K：(反応によっては)あれでどんどんテンション下がっていくこともありえるわけだから(笑)

比：そこで緊張するみたいな(笑)本当いい人たちだったね。

K：一回きりだから、ミスとかもあるんですけど、全自動化すると面白くないんですよ。だから音に反応するエフェクトをその場で加えるとか、生カメラにエフェクトを掛けるとか、コンピュータのプログラムにやってもらうところもありつつ、シーンの切り替えとかはリアルタイムに全部手でやっています。何故かというと、たとえば「音に反応して球体がギザギザしてるだけ」っていうのが結構多いんですけど、プログラム系のVJでそれだけだと個人的には面白くなくて…多分自分はやり倒したんですよね。VJをはじめたての頃とかに。

比：なんか頭の中でこうやれば作れるっていうのが分かっちゃうと、もう興味なくなっちゃう(笑)

―― 確かに客観的に見てると最初「うわー！」ってなって、その後どうなるんだろう？と期待したら意外にそのまま終わっちゃう…っていうのが多いですよね。

K：そこに対して解決する方法として、リアルタイムで色々アレンジしていくみたいなほうが、やっている方も面白い。

―― 単純な質問なんですけど…間に合うんですか？時には「やべ！間に合わなかった！」ってことも…

K：ある。

比：あるかないかで言ったら、ある(笑)

K：だから事前に凄い練習します。コントローラーに絵のパラメータを指定したりとか、PC画面上でも数字で細かい調整を出来るようにしたりだとか …クラブミュージックのVJだと割とノリでタイミングを見て変えていくとかでも成立しがちなんだけど、「Aメロ・Bメロ・サビ」がある楽曲の場合だと、凄い細かくやっていて…それを手でやっていくってなると、当然本番で失敗するっていうのがあって。ただその分、アドリブで「ここで一回画面光らせてやろう」みたいな、「変えて入れる」ことをその場のテンションで出来て。それは一長一短なんですけど。その「失敗するかどうか」と「アドリブができるかどうか」みたいなせめぎ合いが面白いから、ずっとやっていられる。逆にボン出しだけで完結するような仕事ばかりをやっていたら、こんな何年もやっていないと思う。

―― では最後に、若きクリエイターたちにアドバイスを一言頂けますか？

K：この質問をされるということは、俺たちもおっさんになったってことですね(笑)

―― 皆さん背中を追われる立場ですから(笑)「興味はあるけど、まだ何も分からない」など、やりたい事にチャレンジしたい悩める若者に対してでも。

比：前思ったのが、例えばCGを作るとき、基本全てコンピューターの中で作られるもので。それはプログラムで動いていて、プログラムを書いて色々やって…ということはプログラムが書けたらコンピュータでできることは全部出来る…つまりこれは神じゃないか！と(笑)すごい手軽に神になれるので、プログラムをやってみるのは意外とおすすめです。

K：なんか好きなことを、あんまり採算考えずガンガンやるのが良いなと…今年に入って、「金にならなくても自分の名前を売るためにやってきたんですね」みたいなことを3回位いわれて(笑)ちょっと大きなイベントとかで知らない人に。

比：「Kezzardrixさんはどうやって今の地位を築いたんですか？」みたいな(笑)

K：なんか凄い腹が立って(笑)ただ好きだからやっているだけなので。あんまり「この人の映像をやったら、こういう繋がりができて…」みたいな感じじゃないんで(笑)意識して作ったとしても、見てる人からしたら分かるんで。プログラムで映像作るとかインタラクティブってものが今もてはやされているので、名前の売り方というかお金の稼ぎ方としては若者の目指すところなんだと思うけど、そういう欲を出すことを考えずに、「好きだからやる」って気持ちがないと、多分10年続けられていないと思います。とは言ってもお金を稼ぐことは大事なので(笑)俺も稼げるところでは稼いでいきたいです(笑)

清：色々素敵なことをやっている方は沢山いますが、あまり他人のやる事に捉われすぎず、自分の年齢の近い人と一緒に、自分達のコミュニティを作った方がいいよっていう風に思います。僕は同年代の友達がずっと少なかったので、今になってそれを凄く残念だったなと思っています。あとは、足で情報を稼ぐといいことありますよ。

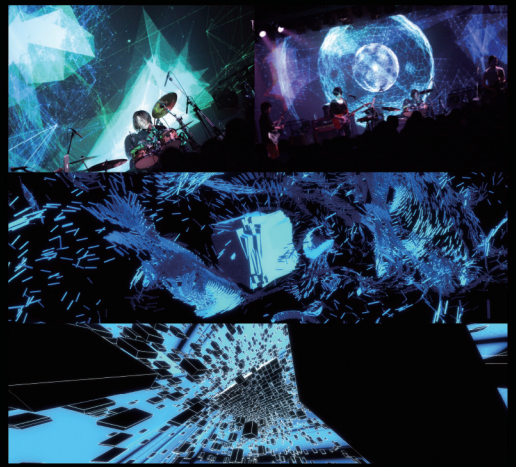
―― ありがとうございました！

「+H WEB」にて誌面PDF・取材レポートを公開中！

iNT HIP LAND MUSIC CREATIVE DIVISION

CREATORS FILE

http://www.hipland.co.jp/int



VISUAL ARTIST

Kezzardrix ｜ ケザードリックス

関西出身のプログラマー/ビジュアルアーティスト。
自作ソフトウェアを駆使したインタラクティブな映像と音楽、モバイルデバイスを用いたパフォーマンス等を行う。プロジェクト毎にソフトウェアを開発するスタイルで様々なアーティストのVJを担当しており、LITEの国内外ツアーにVJとして帯同し、多彩な表現でライブ演出を行う。「Echolocation」のMVを手がけて海外のメディアを中心に大きな話題を呼んだ。

http://www.kezzardrix.net

アートナイト2015 アートトラックプロジェクト（企画製作：ライゾマティクス）

PROGRAMMER, ARTIST

Motoi Shimizu ｜ 清水基

1984年生まれ 東京出身。国際情報科学芸術アカデミー IAMAS DSPコース卒業、School for Poetic Computation 第1期生。
IT系企業数社に勤めた後、2015年よりラボスペース「backspacetokyo」を共同主催。
Glue programmer / Interaction Designer / Artistとして、広告案件からライブ現場での演出テックサポートや企業のリサーチ業務の技術サポート、プライバシー・写真・ライフサイズなデータ・物事の組み合わせに着目した個人製作を行う。
Ludic Interactivity, Real world Oriented, Unuselessnessをキーワードにコードを書き、アプリケーションの開発を行っている。

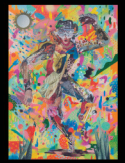
http://aoiannex.com　http://backspace.tokyo

POP COLLAGE ARTIST

Yoh Nagao ｜ 長尾洋

ドイツ、ベルリンを拠点に活動している愛知県出身のポップ・コラージュアーティスト。
カラフルな色使いとコラージュを組み合わせたサイケデリックな作風が特徴的で、欧州だけではなくアメリカ、メキシコでも活躍中。
日本国内では2015年にJRA中京競馬場年間ポスターのメインビジュアルを担当。

http://www.yohnagao.com



THE ORAL CIGARETTES

PHOTOGRAPHER

Viola Kam (V'z Twinkle) ｜ ビオラ

香港出身。イギリスにてジャーナリズム、フィルム、メディアについて学んだ後、2008年より拠点を日本へ移す。
写真なら言葉の壁を越えてたくさんの人に伝えられるという想いから、写真を独学。
現在はライブをはじめ音楽関連の撮影を中心に活動中。

https://shadowviola.wordpress.com

Judas Priest

キュウソネコカミ

Annie Leibovitz（アニー・リーボヴィッツ）| Cover Shoot for Lifestyle Journal Magazine, Hong Kong

JESSE (RIZE / The BONEZ)

HIP LAND MUSIC
LIVE
CREATIVE
音楽プロダクション「HIP LAND MUSIC」が
新たな事業として2017年にスタートさせた
ライブクリエイティブセクション。
HIP LAND MUSIC がこれまで培ってきた、
ライブ制作、演出のノウハウを更に活かすべく設立しました。
エンターテインメントの更なる可能性を追求していきます。

+H RECOMMEND *Special*

かたこと

神奈川県湘南発のスリーピースロックバンド。2016年に結成し、現在は下北沢・横浜・渋谷を中心に活動中。突き抜けたようなクリアな歌声、キャッチーなメロディが持ち味の今年17歳の若手注目株。

https://katakoto3.jimdo.com/

SUNNY CAR WASH

栃木県宇都宮発、1997年生まれの男子3人組ロックバンド。2015年1月に活動開始した前身バンドからのメンバーチェンジを経て現体制に。甘酸っぱく青春感溢れるサウンドが特徴。

http://sunnycarwash.tumblr.com/

The Lump of Sugar

京都発スリーピースギターロックバンド。2015年、同じ高校の軽音部で結成。"今を大事にするために今を歌う"。目指すは"京都の渋谷系"を自称する彼らは王道ポップスでありながら、新しくも懐かしいサウンドが持ち味。

http://tlosinformation.wixsite.com/the-lump-of-sugar

ユアネス

福岡を中心に活動中の、平均年齢22歳のギターロックバンド。変拍子を織り交ぜた物語性のある楽曲が特徴で、不思議な展開をする美しいメロディに力強く繊細なボーカルが加わることで更にその個性を際立たせている。

http://yourness.wixsite.com/official

AUDITION

xsprout. by HIP LAND MUSIC

xsprout.（エクスプラウト）とは…
"未知"や"乗算記号（×）"を意味する「x」と
"新芽"や"成長"を意味する「sprout」に由来した造語

HIP LAND MUSICによる新人発掘プロジェクト

プロジェクトへの応募やプロジェクトスタッフの推薦の中から、
"ぜひライブで観てみたい" "より多くの人に知ってもらいたい"と感じたアーティストを、
ライブイベント『xsprout.』へブッキングします。

HIP LAND MUSICはこのプロジェクトを通して、
今後のリリースや、マネジメント契約を視野に入れ
一緒に活動していくアーティストに出会いたいと考えております。

応募いただいたデモ音源は『全て』聴かせていただきます。
皆様からのご応募お待ちしております。

詳しくはこちら
http://www.hipland.co.jp/audition

EVENT

xsprout. #1

2017.08.15(tue)
下北沢BASEMENT BAR

OPEN 18:00 / START 18:30
ADV. ¥2,000 / DOOR ¥2,300 (+1drink)
STARTまでに来場すると当日物販で使える500円分のクーポンをプレゼント

Saucy Dog
かたこと
SUNNY CAR WASH
The Lump of Sugar
ユアネス

TICKET

・プレイガイド
e+　右記QRコードからチケット販売ページへアクセス➡
・メール予約
ticket@toos.co.jp
・BASEMENT BAR店頭販売
・主催・出演者取り置き予約

問い合わせ：下北沢BASEMENT BAR TEL：03-5481-6366(16:00～)
東京都世田谷区代沢5-18-1 カラバッシュビルB1F
HP：http://toos.co.jp/basementbar

+H PHOTO

サカナクション　2017.5.9　10th ANNIVERSARY「2007.05.09 - 2017.05.09」

KANA-BOON　2017.5.3「VIVA LA ROCK 2017」

HIP LAND MUSIC

サカナクション

KANA-BOON

The fin.

奇妙礼太郎

avengers in sci-fi

LITE

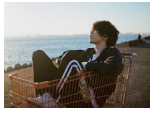
天才バンド

bonobos

Predawn

ワンダフルボーイズ

SUPPORT


米津 玄師

GOOD ON THE REEL

yule

sweet boon music

ゴンチチ

EGO-WRAPPIN'

LONGFELLOW

BUMP OF CHICKEN

MASH A&R

THE ORAL CIGARETTES

フレデリック

LAMP IN TERREN

パノラマパナマタウン

Saucy Dog

YAJICO GIRL

～＋Hスタッフ編集後記～

編集長：根岸 @IchBin_Ngs

コールドブリューコーヒーにハマっています。
淹れ方に関わらず氷で冷やすのがアイスコーヒー、最初から水出しするのがコールドブリューなんですって。普段あまり飲まないんですが、毎年夏だけ愛飲してます、コーヒー。

編集担当：朝比奈 @_ashnsk

あっという間に夏ですね、手持ち花火とかしたい気分です。浴衣も着たいです。花火大会にも行きたいです。線香花火もしたいです。去年は仕事に慣れていなくてバタバタしていたので、今年の夏は私生活も充実させたいと思います。

デザイン担当：岩本 @hallo3310

夏になると「The Damned」が聴きたくなります。夏のうだる様な暑さと倦怠感を痛快なビートが吹き飛ばしてくれます。それではお聴きください。「The Damned」で「New Rose」！ドドタタドドタタドドタタドドタタ…ドドドド！！！！

HIP LAND MUSIC CORPORATION

PLUS +H WEB 本誌のWEBページがOPEN！

オリジナルのプレイリストやアーティスト情報をはじめ
誌面上では載せきれなかった撮影風景や撮影裏話や
音楽業界の裏側に迫るスタッフBLOGなども更新中！

本誌のご意見・ご感想はこちらまで！！
plus-h@music.hlg.co.jp

SNS

@hiplandmusic
@hiplandmusic
hiplandmusic
www.facebook.com/hiplandmusic

ハッシュタグ：#プラスエイチ

ヒップランドミュージックの公式LINEアカウントを開設。

ヒップランドミュージック公式アカウントでは
「LINE LIVE」を使用した貴重なライブ映像配信ほか、
ヒップランド関連の最新情報をいち早く発信。

LINEアプリ→公式アカウント→ヒップランドミュージックで検索